

13.1.1

都サ連通信

発行 東京都手話サークル連絡協議会
 代表 高田 直樹
<http://tosaren.web.fc2.com/index.html>
tosaren@syuwa.tv
 FAX03-3961-2445

新年あけましておめでとうございます。

各サークルにおかれましてはますますご清祥のことと拝察申し上げます。

東京都手話サークル連絡協議会の広報班が活動を始めてから早くも3年が経ちます。その間に都内の加盟・未加盟サークルを訪問し、都サ連の活動の紹介をさせて頂くことが出来ました。様々なサークルの訪問活動の中で、地域の手話サークルが、聞こえない人との交流を通して手話を学ぶという場面に立ち会い、手話サークルが存在する意味や重要性をしみじみと実感致しました。サークルの皆様には貴重なお時間を頂戴し、そのような機会を与えて頂いたことを心より感謝申し上げます。

未だに多くの爪痕が残る東日本大震災からすでに2年が経とうとしております。2013年1月20日の一日研修会では、「忘れない東北を！」というテーマを設けて、被災三県から手話関係者をお招きし、講演して頂きます。また午後には講演の内容を受けてのパネルディスカッションもございます。今後、東京に大地震が起きたときには、自助・共助・公助をどのように行うかを考える上で、手話サークル間のネットワーク作りがとても重要になります。一日研修会を通して、考える材料にしたいと思います。

また昨年は大学の文化祭で手話サークルの活動を見学することができました。各サークルは多いところで70人~80人の会員がいるようです。若い力との協力体制もとても重要になります。今後は大学の手話サークルとの関係作りも視野に入れ活動に励みたいと存じます。代表者会議等では皆様のご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

今年的一年が皆様方にとって素晴らしい一年であるように、お祈り申し上げます。

東京都手話サークル連絡協議会
 代表 高田直樹

福祉対策会議報告

(11月)

- ・東聴連は、11日に都大会(大田区)を開催。25日には課題会議開催。
- ・中難協は、来年1月20日にBIZ新宿において「集い」を開催予定。記念講演は今村彩子監督。
- ・東通研集会は、9月に東聴連と合同で開催。100名超の参加者があった。
- ・都サ連は、1月20日に一日研修会を大塚ろう学校にて行う予定。岩手、福島から県サ連の方々と宮城から支援センターの方をゲストに迎え、災害時の支援について考える。
- ・8月に第24回ろう教育を考える全国討論集会 in 北海道が開催された。2年後の第26回 in 東京に向け、実行委員会立ち上げのための準備会を12月8日に開催。
- ・二年前から、東聴連は東京都と手話ボランティアの災害協定を結んでいるが、都の防災計画変更に伴い、協定内容を見直す予定。
- ・11月29日の地域担当者会議は、田門弁護士を講師に手話言語法の学習。資料代300円徴収。
- ・参政権保障委員会より都選管に提案したコミュニケーションボード(A3サイズ)は、都知事選から使用予定。使用マニュアル文を添付して理解を求める。
- ・来る選挙に向け、立候補者に公開質問状を出す方向で検討中。
- ・政見放送ビデオ上映会は、12月15日に中野区、渋谷区ほか数カ所での開催準備を進めている。
- ・東京都は、外見では分からない障害者の支援としてヘルプカードを作成。各地域で聴障者に使いやすい物として作成することが可能。各区市の運動として展開したい。

(12月)

- ・東京都聴覚障害者大会(11/11)は1,370人の参加者。
- ・学習会&地域担当者会議(11/29)は26地域、76名の参加者。
- ・衆議院議員立候補者への障害者施策に関する質問状とその回答を、3日付けで連盟HPにup。
- ・手話言語法制定推進運動の普及パンフ『手話でGo! ~手話言語法制定に向けて~』を無料配布。
- ・政見放送ビデオ上映会は、スマイル中野と自立支援センターでの実施が確定。葛飾は確認中。
- ・コミュニケーションボードは都選管より発注され、全期日前投票所に配置されるはず。
- ・情報文化センターとの意見交換を希望している。
- ・次回会議は2月6日(月)の予定。

(文責:委員 林)

第16回 全聴福研に参加して

11月17日～18日、代々木のオリンピックセンターにて第16回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会(以下全聴福研)が開催されました。

「～重度重複と高齢の聴覚障害者の発達と権利を考える～」というサブタイトルが示す内容が、日ごろ手話や聴覚障害者に関わる人々の興味関心をどれくらい集めることができるのか。開催直前まで要員不足が叫ばれたのは、参加費の問題もありますが、この問題の重要性が十分に認識されていなかったこととも理由の一つではなかったかと個人的には思っています。

聴覚障害者の生活保障を考える場合、ほかの障害を併せ持つろう者や、高齢のろう者きに必要な制度やインフラもまだまだ未整備であることも、深く認識しなければならない問題です。このことを全国の関係者が一堂に集まって考える場がこの集会です。16回という歴史はこの問題が常に古くて新しいものであることを示しています。

これらの問題に対して当事者や当事者の家族だけでその解決に至ることは当然のことながら難しいことです。この問題のために動く周囲の理解者が必要になるのです。都サ連もたましろの郷、あゆむ会への支援を続けてきました。

生活保障のキーワードはやはり「コミュニケーション」です。どんな人であれ、他者とのコミュニケーションが欠如した生活というのは容認されるべきではない。聴覚障害者にとって必要なコミュニケーション手段の主たるものは言うまでもなく手話もしくはそれにかわる非音声言語手段でしょう。聞こえる人、聞こえない人に関わらず、「手話」を知るものの出番がここにあります。

ここまでは、この集会に対する私見を長々と書いてしまいました。肝心の内容については分科会の数を見ても分かる通り、多岐にわたるものでした。ろう重複障害者や高齢のろう者の生活保障を考える時には、これだけの切り口があり、それぞれの分野で草の根の活動を続けている人がこれだけいるということに感動を覚えずにはいられませんでした。

自分は開演前の受付等のお手伝いをしてから、特別講演と分科会に参加することができました。実行委員のご配慮に感謝しております。特別講演は自分の大学時代の同窓生の武居渡氏。CODAの彼は当然ながら学生時代から手話が堪能でした。その後、研究者としての道に進んで手話やろう教育の研究・指導を続けています。彼の、「手話」に対する温かく鋭い意見をわかりやすく説明する姿に手話への限りない愛情を感じました。

自分が参加した分科会で印象的だったのは、昨今の施設建設に対する考え方の変化についてでした。障害者福祉全体の考え方としては、自分が育った「地域における生活」が重要視されています。そこではむしろ、身近な場所にグループホームを作る運動などが必要になるわけです。このように要員として実際に参加することで、当然ながらこの集会の意義を再理解して今後もサポートしていくことの重要性を肌で感じ、かつ大いに勉強することのできた貴重な時間でした。

18年前、自分が教員として初めて赴任した場所が都立立川ろう学校の高等部重複障害学級でした。ここのOBや在校生の保護者が中心の「めざす会」(現在のあゆむ会の前身)が中心になり、ろう重複障害者の就労の場としての「かたつむり作業所」を運営しながら入所施設(のちの「たましろの郷」)設立の運動を進めている真っ最中でした。その後施設が建設され、「あゆむ会」となった今も当時のスタッフ、保護者の皆様は変わらず活動を続けられています。都サ連やこうした集会でお会いするたびに頭の下がる思いです。

自分の当時の教え子(と言ってももう立派な成人ですが)がたましろの郷にも入所されています。彼女のお母様も今でもこうしたイベントや集会にはできる限り足を運んでおいでです。この日も雨の降る中、入り口の門のところでお母様にお会いしました。施設に入ったから終わりではないのです。

(手話サークルまちだ 太田)

自立支援センター運営委員会報告

11月10日(土)10～12時

12月8日(土)10～12時

○1月4日(金)13時から事務所開き

○ふれあいサロン 第2土曜日18時より

ビール・おつまみの準備があります。

今後の予定:1月12日、2月9日、3月9日

参加者減少、担当者負担を考え、

来年度は隔月にして継続するかどうか検討する。

ろう・健聴問わず、みなさんぜひ一度参加してください!

○特別講演会第3弾

テーマ「手話は奥深い」

日時:3月31日(日)14～16時15分

場所:渋谷区リフレッシュ氷川1階集会室

講師:那須英彰氏 参加費:1,000円

チケット発売中、FAXでの申し込みも可

○耳の日記念文化祭

模擬店 お汁粉、甘酒販売を予定

○次回 運営委員会は1月12日(土)10時から

以上です。

(文責 杉石)